障害児を育てる母親のストレスと家族機能

田中正博

本研究は障害児をもつ家族 180 家族 360 名を対象に、健常児をもつ家族 210 家族 420 名との比較に基づいて、家族機能（充実した家族の連帯感・家族の決まり）と母親のストレスとの関係を明らかにした。質問紙法による調査の結果は次のようなった。1)障害児をもつ母親は健常児をもつ家族に比べ、すべてのストレス項目で有意に高かった。また、「充実した家族の連帯感」は健常児をもつ母親・父親で有意に高く、「家族の決まり」も定まっていた。(2)夫婦関係や母親自身の悩みは満足した家族の連帯感によって軽減される。(3)障害児をもつ家族の場合、高ストレスを示す母親は「充実した家族の連帯感」が有意に低かったのに対して、その家族の父親では有意に高かった。父親と母親の間で家族認知の葛藤について考慮する必要性が示された。

キー・ワード：家族機能 充実した家族の連帯感 家族の決まり 母親のストレス

I. 問題と目的

家族の中で子どももっとも関わる時間が長いのは母親である。障害児においても治療センターなどに同伴するのは母親であるし、健常児においても子どもの教育は通常、母親が担っている。子どもの心身の成長過程においては母親の存在は重要だと思われる。

障害児をもつ母親は健常児をもつ母親よりも心理的・身体的にも負担が大きい。それゆえ、母親を援助していくことは障害児を含む家族全体の安定にもつながるものと思われる。

障害児をもつ母親についての研究は数多くなされてきている。それらを大別すると3つに分けられる。1つは障害児をもつ母親の初期ショック反応についての研究である。2つ目は障害児に対して母親がもつ価値観の葛藤についての研究がある。3つ目は母親がもつ現実のストレスについての研究である。McArdle (1977) は自閉症児をもつ母親の現実のストレスを、母親への一般的影響、コミュニケーション能力と学習能力、行動特性、社会との関係から考察している。また、Holroyd and McArther (1976; 1987) は障害児本人の属性、障害の種類、程度など障害そのものの差異に注目し、206 項目、15 尺度からなる Questionnaire on Resources and Stress (QRS)を開発し、さらに簡易型（QRS-SF）も作成している。

稲波・西・小椋は上記の QRS を和訳し、障害児を育てる親のストレスについて調べ、国際的な比較を試みている (1980; 1994)。

また、橋本 (1982) はストレスの規定要因は家族内、外部にとどまらず、家族経済のダイナミックス、価値観、さらには家族外の資源までを考慮することを主張している。

このように、家族外の要因、個人の主観的な要因がとりあげられるなか、植村・新見 (1991) は母親のストレス規定要因を障害児本人の属性要因や家族内、外の客観的な要因のみならず、母親の主観的な態度要因も加えることの重要性を主張している。こうして今川・古川・伊東・南 (1993) は障害児をもつ母親の態度要因に焦点をあて母親が社会に対する期待で消極的、中間的、前向きという3つの態度に分かれたこと、夫との間の葛藤が存在することが示された。

しかし、母親のストレスの存在が発見できてもそれを受け立てる家族または社会を含めた上で説明されているわけではない。これは社会の基本的単位である家族に焦点をあててみたい。

最初に個人の不適応問題を家庭に求め、注目したのは Freud (1905) である。「感情転移」について説明するため家族内の人間関係に触れ。また、Fromm-Reichman (1949) は「分裂病をつくる母親」の研究
で家族を考えていった。やがて、病める家族を対象にするだけでなく、家族を全体（family as a whole）としてとらえ健康な家族像も含めて考えていくとする立場が生まれた。

Bowen (1978) は「家族システム」という言葉をはじめて用い、自己分化（differentiation of self; 情動と知性が個人の中で十分に分化した状態のこと）という概念を用い、家族員の精神病理に関する力動性を重要視している。ストレスの悪影響を緩和し、個人の精神的安定を提供する機能をもつもののひとつが家族機能である。家族機能は家族内の個人が認める家族の家族凝集性（family cohesion）、家族適応性（family adaptability）を指す。家族が十分機能していれば、成員は危機的状況や多大なストレスにも耐え、病状に陥らずに済む（Jackson, 1966）。家族機能の重要性は家族療法家などであってストレス状況を緩和していくことが知られている。

そういったなかで Olson and Barnes (1985) は「機能的な家族は良好なコミュニケーションスキルを有しており、成員はその状態に満足している。」という仮説のもとで「もっとも機能的な家族は家族凝集性（family cohesion）、家族適応性（family adaptability）の次元の中間域に位置する。」とし、円環複合モデルを提唱している。前者は家族の成員を結び付けている絆として理解され、後者は家族が直面する状況のあるいは発達的危機に対する適応もしくは変化的能力である。

これまでの研究では障害児をもつ家族や家族のストレス要因について分析が進んでいるが、家族機能との関係で論じられたことはなく、実証的な分析は十分とはいえない。

そこで、本研究では(1)障害児をもつ家族と健常児をもつ家族の凝集性と適応性の2次元からなる家族機能を比較すること。また、(2)障害児を育てる母親のストレスを軽減するために、健常児をもつ母親との比較によって家族機能と母親のストレスとの関係を明らかにすることを目的とする。

II. 方 法

1. 調査対象

愛知県下の養護学校小学校部、中学部 180 家族 360 名（母親・父親）である。対象群は名古屋市内の公立小学校に在籍する児童をもつ家族 210 家族 420 名である。

2. 調査手続き

障害児をもつ家族（母親以下 HM 群・父親 HF 群）360 名に学校長及び担任を通じ調査用紙を配布した。

回収方法は郵送としたが、総配布数は 360、回収数は HM 群・HF 群合わせて 229（63.6%）、無回答などを除く有効回答数は 224（62.2%）であった。健常児をもつ家族（母親以下 NM 群・父親 NF 群）に関しても同様の手続きをし、総配布数のうち有効回答数は 239（56.9%）であった。

3. 調査内容

1）個人の背景要因：障害の種別、程度、子どもの性別、母親、父親、兄弟関係、年齢、祖父母との同居などを作図、記入してもらった。

2）家族機能：Olson, D. H. (1985, 1991) が作成した FACES （Family Adaptability and Cohesion Evaluation Scales）II、III を西出（1999）などに準じたもので、適応性尺度14項目6段階尺度（Table 2）を用い、適応性尺度8項目6段階尺度を用いた（Table 2）。

この尺度では高得点になるほど家族のルールが決まっていないことを表す。いずれも家族像に対し、父親・母親が家族をどういうふうに認知するかを「まったくあてはまらない～ひじょうによくあてはまる」の6段階で評価した。

3）母親のストレス：母親が子どもを養育していいく際に生じるストレスを稲波・小槻・西（1980）の QRS 日本語版を参考に、必要と思われるもので作成した10項目を同様にして「まったくあてはまらない～ひじょうによくあてはまる」の6段階で評価した。

III. 結果と考察

1）尺度の信頼性と因子構成

本調査で FACES から抽出した項目を HM・NM・NF・HF 群それぞれについて調査を実施したが、信頼係数は α = 0.758 ～ 0.879 であり、内部的一貫性には問題ないように思われる。

それぞれの群において FACES を因子分析（主因子解－Varimax 回転）した結果、2 因子構造をなしていった。家族凝集性尺度 1、私の家族では、みんなが自分の考え方を口に出して言うやさしい。2、私の家族は温かく、清らかに感じられる。3、私の家族は私が望む雰囲気をはっきりとも表れていた。4、私の家族には連帯感がある。5、家の中では何でも話ができる。6、家族は私の言っている意味をほぼ正確にとらえる。7、私の家族はお互いにとてもうまくいっていると思う。8、私の家ではお互い自分の好きなことができる。9、私の家族は、私が
障害児を育てる母親のストレスと家族機能

### Table 1 A）家族の背景要因

|                  | 障害児をもつ家族 | 健常児をもつ母親 |
|------------------|------------------|------------------|
| 母親の平均年齢   | 42.1 (5.7)       | 38.7 (6.1)       |
| 子どもの平均年齢 | 10.2 (8.6)       | 11.6 (6.3)       |
| 父親の平均年齢   | 44.3 (6.4)       | 39.3 (6.9)       |

### B）家族構成

| 家族構成 | 障害児をもつ家族 | 健常児をもつ家族 |
|----------|------------------|------------------|
| 父方      |                  |                  |
| 老親＋両親+兄弟1 | 1               | 4               |
| 2         | 21               | 22              |
| 3         | 12               | 0               |
| 4人以上   | 1                | 0               |
| 小計      | 35               | 26              |
| 母方      |                  |                  |
| 老親＋両親+兄弟1 | 1               | 2               |
| 2         | 2                | 5               |
| 3         | 5                | 0               |
| 4人以上   | 1                | 0               |
| 小計      | 9                | 7               |
| 両親+兄弟1 | 2               | 11              |
| 2         | 27               | 39              |
| 3         | 18               | 26              |
| 4人以上   | 4                | 6               |
| 小計      | 51               | 81              |
| その他    | 2                | 2               |
| 合計      | 97               | 117             |

兄弟1とは障害児の場合本人を表す

### C）子どもの障害の種類

| 障害種別 | 有効数 |
|----------|--------|
| 自閉     | 44     |
| 発達遅滞 | 57     |
| 肢体不自由 | 11     |
| 虚弱     | 5      |
| 合計     | 117    |

心のよろでき場所である。10、私と家族の気持ちはよくある。11、私は問題が起こったときには、いつも家族をたよりにする。12、私の家族は、お互い十分な関心を通じて守っている。13、家族は私の気持ちをよく理解してくれる。14、家族の者は私の悩みをかかっていて励ましてくれる。＜適応性尺度＞1、家族で決めたことはみんなで守る。2、いったん家族の者それぞれが果たすべき役割が決まると、後でそれを変えるのは難しい。3、私の家族には、決まり（ルール）があるのかはっきりしない。4、私の家族では、おたがいの役割分担がはっきりしている。5、私の家族ではいったん決めたことを変えるのは難しい。6、時間はきっちり守ることは、私の家族では重視されている。7、私の家族にはしっかりとした決まりはない。8、私の家族の中では、決まりを守ることがとても大切にされている（Table 3）。NM群とNF群では「問題が起こったと
田中正博

Table 2 家族凝集性尺度・適応性尺度の項目内容

| 家族凝集性尺度 | 適応性尺度 |
|----------------|-------------|
| 1. 私の家では、みんなが自分の考えをはっきりと口に出て言いやすい |
| 2. 私の家族は温かく明るい感じがする |
| 3. 私の家庭は私が望むふんいきをほぼいつも備えていた |
| 4. 私の家族には遠慮感がある |
| 5. 家の中では何でも話ができる |
| 6. 家族は私のいる意味をぽか正確にとらえる |
| 7. 私の家族はおたがいにとてもうまくいっていると思う |
| 8. 私の家ではお互い自分の好きなことができる |
| 9. 私の家庭は、私が心のどこにできる場所である |
| 10. 私と家族の気持ちはよく合っている |
| 11. 私は問題起こしたときには、いつも家族をたよりにする |
| 12. 私の家族は、お互いじゅうぶんな関心をもって接している |
| 13. 家族は私の気持ちをよく理解してくれている |
| 14. 家族の者は私の悩みをわかっていて励ましてくれる |
| 1 (まったくあてはまらない)〜6 (ひじょうによくあてはまる) の6件法 |
| 1. 家族で決めたことはみんなで守る |
| 2. いろんな家族の者それぞれが果たすべき役割が決まると、後でそれを変えるのは難しい |
| 3. 私の家には、決まり（ルール）があるのかはっきりしない |
| 4. 私の家では、おたがいの役割分担がはっきりしている |
| 5. 私の家ではいったんこうと決めたことを変えるのは難しい |
| 6. 時間をきちんと守ることは、私の家族では重視されている |
| 7. 私の家にはしっかりとときたまりはない |
| 8. 私の家族の中では、決まりを守ることがとても大切にされている |
| 1 (まったくあてはまらない)〜6 (ひじょうによくあてはまる) の6件法 |

Table 4 各項目とも負荷が高く、第1因子を「子供もに関するストレス」(S1)と名付けた。第2因子を「夫婦関係・母親自身の悩み不満」(S2)とした。2. 各群間の比較

尺度ごとに各群で平均等とその群の検定結果をTable 5に示した。差の検定はt検定で行った。まず、健常児をもつ母親は障害児をもつ母親に比べ、「充実した家族の遠慮感」において有意に高いのに対し、「家族の決まり」では有意に低かった。すなわち、ルールはあまりないことになる。ストレスについては「子供もに関するストレス」、「夫婦関係・母親自身の悩み」「全体」のすべてについて、障害児をもつ母親が有意に高く、「家族の決まり」も健常児をもつ母親のほうが低かった。HM群ではSFCHとADPとの間、
障害児を育てる母親のストレスと家族機能

Table 3-1 A）障害児をもつ母親の家族機能の因子分析結果

| 項目 | No | FACTOR1 | FACTOR2 |
|------|----|---------|---------|
| 私の家では、みんなが自分の考えをはっきりと口に出して言えやすい | 1  | .6352   | -.3383  |
| 家族で決めたことはみんなで守る | 2  | -.4581  | .3795   |
| 私の家族は温かく明るい感じがある | 3  | .7732   | -.3321  |
| いったん家族の者それぞれが果たすべき役割が決まるとき、後でそれを変えるのは難しい | 4  | .0999   | -.0954  |
| 私の家は、決まり（ルール）があるのかはっきりしない | 5  | -.0065  | .5809   |
| 私の家庭は私が望むふんいきをほわいつも務めていた | 6  | .6530   | -.0740  |
| 私の家族には連帯感がある | 7  | .7209   | -.2328  |
| 家の中では何でも話すことができる | 8  | .7287   | -.2485  |
| 私の家では、おたがいの役割分担がはっきりしている | 9  | -.2120  | .4125   |
| 家族は私のいっている意味をはっきりと理解する | 10 | .7334   | -.1011  |
| 私の家族はおたがいにとってもうまくいっていると思う | 11 | .7709   | -.2166  |
| 私の家ではお互い自分の好きなことができる | 12 | .0462   | -.0852  |
| 私の家ではいったんこうと決めたことを変えるのは難しい | 13 | .2274   | -.0441  |
| 時間をきちんと守ることは、私の家族では重視されている | 14 | -.0933  | .2619   |
| 私の家庭は、私が心のところにできる場所である | 15 | .6785   | -.0591  |
| 私と家族の気持ちはよく合っている | 16 | .6479   | -.0255  |
| 私の家にはしっかりとしたきまりはない | 17 | .0177   | .5577   |
| 私は問題が起こったときには、いつも家族をたよりにする | 18 | .5173   | -.0450  |
| 私の家族は、お互いじゅうぶんな関係をもって接している | 19 | .6421   | -.0347  |
| 私の家族の中では、きりを守ることがとても大切にされている | 20 | -.2496  | .1637   |
| 家族は私の気持ちをよく理解してくれている | 21 | .7554   | -.0489  |
| 家族の者は私の悩みをわかっていて励ましてくれる | 22 | .7195   | .0577   |

Σa² (%)
7.1300 2.3089

Table 3-1 B）障害児をもつ父親の家族機能の因子分析結果

| 項目 | No | FACTOR1 | FACTOR2 |
|------|----|---------|---------|
| 私の家では、みんなが自分の考えをはっきりと口に出して言えやすい | 1  | .5476   | -.0615  |
| 家族で決めたことはみんなで守る | 2  | -.4475  | .3417   |
| 私の家族は温かく明るい感じがある | 3  | .6434   | -.0526  |
| いったん家族の者それぞれが果たすべき役割が決まるとき、後でそれを変えるのは難しい | 4  | .0971   | .1055   |
| 私の家は、決まり（ルール）があるのかはっきりしない | 5  | -.0078  | .7038   |
| 私の家庭は私が望むふんいきをほわいつも務めていた | 6  | .6484   | -.2107  |
| 私の家族には連帯感がある | 7  | .7121   | -.2802  |
| 家の中では何でも話すことができる | 8  | .7113   | -.0949  |
| 私の家では、おたがいの役割分担がはっきりしている | 9  | -.1812  | .5230   |
| 家族は私のいっている意味をはっきりと理解する | 10 | .5937   | -.0814  |
| 私の家族はおたがいにとってもうまくいっていると思う | 11 | .7421   | -.0454  |
| 私の家ではお互い自分の好きなことができる | 12 | .3511   | -.0401  |
| 私の家ではいったんこうと決めたことを変えるのは難しい | 13 | .0912   | .0565   |
| 時間をきちんと守ることは、私の家族では重視されている | 14 | -.1851  | .6260   |
| 私の家庭は、私が心のところにできる場所である | 15 | .4444   | -.3042  |
| 私と家族の気持ちはよく合っている | 16 | .6379   | -.2968  |
| 私の家にはしっかりとした決まりはない | 17 | .0009   | .7052   |
| 私は問題が起こったときには、いつも家族をたよりにする | 18 | .5128   | -.0329  |
| 私の家族は、お互いじゅうぶんな関係をもって接している | 19 | .6824   | -.3551  |
| 私の家族の中では、決まりを守ることがとても大切にされている | 20 | -.1253  | .6615   |
| 家族は私の気持ちをよく理解してくれている | 21 | .5837   | -.1917  |
| 家族の者は私の悩みをわかっていて励ましてくれる | 22 | .5241   | -.1517  |

Σa² (%)
5.6656 3.1499

--- 27 ---
| 項目 | No | FACTOR1 | FACTOR2 |
|------|----|---------|---------|
| 私の家では、みんなが自分の考えをはっきりと口に出して言いたい | 1 | 0.684 | -1.565 |
| 家族で決めたことはみんなで守る | 2 | -0.238 | 0.530 |
| 私の家族は温かく明るい感じがある | 3 | 0.756 | -1.132 |
| いったん家族の者それぞれが果たすべき役割が決まると、後でそれを変えるのは難しい | 4 | 0.0964 | 1.409 |

Σa² (％) | 6.0458 | 3.2988 |

| 項目 | No | FACTOR1 | FACTOR2 |
|------|----|---------|---------|
| 私の家には、決まり（ルール）があるのかはっきりしない | 5 | -0.2580 | 0.0720 |
| 私の家族は私が望むふんいきをほぼいつも備えていた | 6 | 0.7157 | -1.888 |
| 私の家族には連帯感がある | 7 | 0.5900 | -1.453 |
| 家の中では何も話ができない | 8 | 0.6893 | -0.238 |
| 家の役割分担ははっきりしている | 9 | -0.2131 | 0.5195 |
| 家族の役割をいつも間違えて理解している | 10 | 0.6465 | -1.123 |
| 家族の役割がときどき本当の役割を果たしている | 11 | 0.7318 | -0.0747 |
| 家族の役割をよく理解している | 12 | 0.6445 | 0.0671 |
| 家族の役割をあたかも決まったことと変えるのは難しい | 13 | -0.0900 | 0.0591 |
| 家族の役割をもっそう守る | 14 | 0.0292 | 0.5597 |
| 家族の役割をもっそう守る | 15 | 0.5186 | -3.591 |
| 家族の役割をもっそう守る | 16 | 0.6871 | -2.456 |
| 家族の役割をもっそう守る | 17 | -0.8833 | 0.4586 |
| 家族の役割をもっそう守る | 18 | 0.3083 | -0.5987 |
| 家族の役割をもっそう守る | 19 | 0.3902 | -0.6039 |
| 家族の役割をもっそう守る | 20 | 0.0130 | 0.6763 |
| 家族の役割をもっそう守る | 21 | 0.5412 | -0.4294 |
| 家族の役割をもっそう守る | 22 | 0.5583 | -0.4209 |

Σa² (％) | 6.0458 | 3.2988 |

---

Table 3-2 A）健常児をもつ母親の家族機能の因子分析結果

Table 3-2 B）健常児をもつ父親の家族機能の因子分析結果
障害児を育てる母親のストレスと家族機能

Table 4  母親のストレスの因子分析結果

| 項目       | FACTOR1 | FACTOR2 |
|------------|---------|---------|
| 1. この子を比べられるので、親戚の家へ遊びに行きにくい  | 0.8026  | -0.2903 |
| 2. 親戚へこの子をつれて遊びに行くとあまりいい顔をされない  | 0.7993  | -0.2843 |
| 3. 自分の悩みを話せる友達がいないので寂しい  | 0.3772  | -0.2843 |
| 4. 夫婦でゆっくり時間がもてなくて、もたならない  | 0.2815  | -0.6530 |
| 5. この子のことで悩んでいても、夫はあまり気を配ってくれないので、不満である  | 0.2083  | -0.8933 |
| 6. 夫が、あまりこの子のことを話題にしたがらないので不満である  | 0.2670  | -0.8194 |
| 7. ちょっとした自分の時間がほしくもなかなか思うようにとれない  | 0.3614  | -0.4494 |
| 8. 働きに当たりたいと思うが、この子のこともあり、できるそうにない  | 0.4839  | -0.2246 |
| 9. この子が家の中で騒いでいると、うとうとう思うことがある  | 0.7267  | -0.2452 |
| 10. この子は危険なことを平気でするのでハラハラさせる  | 0.6617  | -0.1532 |

\[
\Sigma a^2 = 2.9500 \quad 2.4877
\]

Table 5  各尺度での父母の平均値とその差の検定結果

|                | 障害児をもつ母親 | 健常児をもつ母親 | 検定 |
|----------------|----------------|----------------|------|
| 充実した家族の連帯感 | 59.017 (10.062) | 60.976 (9.618) | **   |
| 家族の決まり      | 19.829 (4.047)  | 18.238 (4.499) | **   |
| ストレス全体      | 27.598 (9.242)  | 22.845 (7.782) | **   |
| 子どもに関するストレス | 14.598 (5.547) | 11.784 (3.909) | **   |
| 夫婦関係・母親自身の悩み | 10.906 (4.374) | 9.227 (4.283)  | **   |

**p<0.01

|                | 障害児をもつ父親 | 健常児をもつ父親 | 検定 |
|----------------|----------------|----------------|------|
| 充実した家族の連帯感 | 57.963 (8.374) | 60.248 (9.574) | **   |
| 家族の決まり      | 20.262 (4.105) | 19.540 (4.547) | *    |

*p<0.02  **p<0.01

SFCH と S2 との間で中程度の負の相関がみられた。また、NM 群では SFCH と ADP の間で中程度の相関がみられた。(Table 6)

このように、障害児をもつ母親は健常児をもつ母親に比べストレスが高かった。これは健常児をもつ母親の場合、子どもと接する時間が障害児をもつ母親に比べ短いことに加え、心理的負担が軽いことがあげられる。さらに、障害児をもつ母親では子どもに関するストレスがいっそう高く、しかも、Table 1 B に示したように障害児をもつ家族は 70％が核家族である。このことが母親をいっそう関鎖的にし、心理的負担を恒常的なものにする。そこで、夫の協力というものが欠

— 29 —

NII-Electronic Library Service
低段落のものを示すものとな る(割合 (%))。協力を「充実」し、子どもを示す母親の家族が、荒れた連帯感が低ストレスを示す母親の家族の﹑親が、有意差があった。

障害児をもつ母親の場合、「充実した家族の連帯感」と「夫婦関係・母親自問の連帯感」が関係にあることと先にも述べたが、ここでの結果はそれを支持するものとなった。高ストレスの母親高ストレスの母親よりも「充実した家族の連帯感」が得られており、さらに「家族の決まり」もきちんと定められていた。障害児をもつ家族の場合、「家族の決まり」は定めにくい状況が存在する。しかし、逆に、家庭の連帯感を感じ、満足している状況を示すことがや、家庭の性格を次第に定まった状態にしていくことによってストレスは軽減されていくものと思われる。一方、父子関係はそういった認知がまったく反対であったのは注目に値する。母親が高ストレスを示し、「充実した家族の連帯感」が得られていないにも関わらず、その夫が得られている。また、高ストレスの母親が「家族の決まり」は混乱していると認知しているのにも関わらず、しっかりとしているように認識している。その原因として家族内のルールがもはや親の役割であるということや、健常児をもつ家族では想像もつかないような家庭の問題が考えられる。このことは今川・古川・伊藤・南(1993)も述べているように、「夫への評価」と「夫への期待」は対応しておらず、必ずしも期待が評価に反映されない、というような状況も考えられる。健常児をもつ家族では母親が高ストレスを示すと「充実した家族の連帯感」は得られにくいという結果は母親と父親の家族認知が一致していること、また、「家族の決まり」について母親と父親では数値の上での差異の違いはあるが有意差はないということ

---

| SFCH | ADP | ST  | S1  | S2  |
|------|-----|-----|-----|-----|
| -.463** | -.330** | -.205* | -.425** |
| -.484** | .177 | .182 | .160 |
| -.338** | .107* | .898** | .846** |
| -.220* | -.120 | .848** | .564** |
| -.317** | .048* | .843 | .493** |

右上が障害児をもつ母親、左下が健康児をもつ母親 **p<0.01, *p<0.05, *p<0.10

田 中 正 博

Table 6 家族機能の各尺度とストレスとの相関
障害児を育てる母親のストレスと家族機能

Table 7 母親のストレスと家族機能

|                          | 高ストレスの母親 | 低ストレスの母親 | 検定結果 |
|--------------------------|----------------|----------------|----------|
| 充実した家族の連帯感     | 55.750 (11.584)| 61.833 (8.139)| ***      |
| 家族の決まり             | 21.667 (4.460)| 19.889 (3.725)| **       |

|                          | 高ストレスの母親 | 低ストレスの母親 | 検定結果 |
|--------------------------|----------------|----------------|----------|
| 充実した家族の連帯感     | 61.400 (7.877)| 57.400 (10.025)| **       |
| 家族の決まり             | 18.400 (3.639)| 20.200 (3.563)| *        |

B）健常児をもつ家族

|                          | 高ストレスの母親 | 低ストレスの母親 | 検定結果 |
|--------------------------|----------------|----------------|----------|
| 充実した家族の連帯感     | 57.700 (14.519)| 64.800 (9.418)| *        |
| 家族の決まり             | 16.700 (4.496)| 17.400 (5.200)| n.s.     |

|                          | 高ストレスの母親 | 低ストレスの母親 | 検定結果 |
|--------------------------|----------------|----------------|----------|
| 充実した家族の連帯感     | 61.600 (7.214)| 63.400 (8.204)| n.s.     |
| 家族の決まり             | 19.700 (4.314)| 18.867 (4.395)| n.s.     |

***p<0.001, **p<0.01, *p<0.05

文 献
1) Bowen, M. (1978) Family Therapy in Clinical Practice. Jason Aronson, New York.
2) Freud, S. (1905) Bruchstuck Einer Hysterie-Analyse. 細木・飯田訳「あるヒステリー患者の分析の断片」著作集 No. 5 (1965). 人文書院.
3) Fromm-Reichman, F. (1940) Notes on the Mother Role in the Family Group. Bull. Menninger Clin.
4) 橋本厚生 (1980) 障害児を持つ家族のストレスに関する社会学的研究—肢体不自由児を持つ家族と精神薄弱児を持つ家族の比較を通して—. 特殊教育学研究, 17 (4), 22-31.
5) Holroyd and McArther (1976) Mental Retardation and Stress on the Parents. A contrast between Down’s syndrome and child autism. American Journal of Mental Deficiency, 80, 431-436.
Parental Stress from Caring for Children with Disabilities, and Family Functioning

Masahiro TANAKA

Fukuoka Juvenile Training School, The Ministry of Justice (Fukuoka-Shi, 815)

To investigate the relation between family functioning (satisfactory cohesion and family role) and stress in mothers of children with disabilities, the responses on a questionnaire completed by three hundred and sixty people from 180 families of children with disabilities were compared with those of 420 people from 210 families of children without disabilities. The results were as follows: (1) On all scales, mothers who had children with disabilities showed higher stress than those who had children without disabilities. Parents who had children without disabilities revealed higher levels of satisfactory cohesion and family role. (2) Distresses in marital relations are reduced by means of attainment of satisfactory family cohesion. (3) In the families of children with disabilities, mothers who reported high stress showed lower levels on the scale measuring satisfactory cohesion. However, fathers in those families showed higher levels on that scale. This suggests that the conflicts of fathers and mothers should be considered.

Key Words: family function, satisfactory cohesion, family role, parental stress, parents of children with disabilities